

令和6年度

施政方針

刈谷市長

令和6年は、元日に能登半島地震が発生し、多くの方が被災され、尊い命が失われるという悲しみの幕開けとなりました。ご家族や友人と楽しい正月の時間を過ごされていたところへの災害ということで、被災された皆様のご心中察するに余りあるところでございます。まずは所信の表明にあたりまして、今回の震災で亡くなられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された全ての皆様に心よりお見舞い申し上げます。

本市からもトイレトレーラーや給水車の派遣といった物的支援や、下水道管路の被害調査、家屋の被害認定調査などの人的支援を行ってまいりました。しかしながら、被災地では未だ多くの方が避難生活を余儀なくされ、復興に向けて大勢の方が懸命な努力を続けていらっしゃいます。引き続き、被災地のニーズに沿った支援を継続するとともに、皆様の安心、安全と一日も早い被災地の復旧、復興を心よりお祈り申し上げます。

昨年、市長として2期目の任期をスタートさせていただき半年余りが過ぎようとしています。私は常々「日本一安心・安全なまち刈谷」と申し上げておりますが、1期目でその実現のための施策に数多く取り組むことができましたのも、ひとえに市民並びに議会の皆様のご理解とご協力の賜物であると、改めて感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、11月に政府は、「デフレ完全脱却のための総合経済対策」を発表しました。30年振りの高水準となる賃上げが行われ、社会を大きく変える転換期を迎えている今、自治体においても、企業の設備投資や雇用の促進、地域経済の活性化を図りながら、成長型経済への変革を後押しする役割が求められています。さらに、コロナ禍により希薄になった人と人とのつながりやにぎわいを取り戻すためにも、人々が積極的に外に出て触れ合う仕組みづくりや消費を喚起する施策を展開していく必要がございます。そのような状況にあって、昨年末には、高齢者の外出促進を図るシニア向けお出かけキャンペーンを、そして今年に入ってから、市のLINE公式アカウントで友達登録をいただいている方にデジタルクーポンを発行するK-p o n事業などを相次いで実施しているところでございます。このK-p o n事業実施後には公式LINEの友達登

録者数が12万人を突破し、商業振興のみならず、情報伝達手段の強化を図ることにもつながっています。

一方で、円安や国際情勢の不安定さに起因する急激な物価高騰は、多くの方の生活に影響を及ぼしています。そのような社会情勢にあっても市民の安心・安全を守る。特に子どもたちの未来や子育て世帯の暮らしを守るということは喫緊の課題と認識しています。昨年は、急激な物価高騰に対し、緊急避難的に、広く子育て世帯を支援する目的で2学期末までの給食の無償提供を実施いたしました。3学期以後も給食の質の維持に努めながら、新たな施策といたしまして、通常の学年と比較して大きな負担となっている修学旅行に係る費用への支援を実施してまいります。そして今後も、公平性、緊急性などを考慮しながら、適時適切な支援策を講じてまいりたいと考えております。

国は昨年、少子化トレンドの反転を目指し、「こども未来戦略」を策定しました。戦略の中では「日本は子どもを生み、育てやすい国だと思うか」との問いに対し約6割が「そう思わない」と回答している実態が示されています。国は今後3年間を集中取組期間として加速度的に施策を推し進めるとしており、本市としましても国の施策に足並みを揃えつつ、子育てMa a Sなど刈谷市独自の新たな取組に果敢にチャレンジしてまいりたいと考えています。

また、「子どもを生み、育てやすい国だと思うか」との問いには社会の構造的な問題も大きく関わってまいります。今後も事業者の皆様をはじめ地域社会を構成する全ての皆様に、子どもや子育てに優しい社会実現へのご協力をお願い申し上げる次第でございます。

私たちのまち刈谷は、歴代市民の皆様の努力により産業都市として大きな発展を遂げてまいりました。さらには、先人たちの郷土愛により培われた美しい自然と文化も持ち合わせています。こうした本市の魅力を再発見することができる周遊型の謎解きイベントを3月から実施いたします。謎解きイベントということで、私も謎の詳細は聞いていませんが、刈谷市がどうして魅力的なのか、その謎の一端に改めて気づくことができるものとなるようです。刈谷市に「訪れて

みたい」「住みたい」「住み続けたい」と改めて思っただくきっかけになればと考えています。

それでは、以下、令和6年度の主要施策と予算における基本的な考え方についてご説明申し上げます。

基本方針の一つ目は、「安心して暮らし続けられる快適なまちづくり」であります。

快適な都市空間と市内外の円滑な移動環境の整備を進めるとともに、災害などのリスクに強い基盤整備を行うことにより、生活の質を維持、向上させ、都市と自然が共存した魅力ある住みよいまちづくりを進めてまいります。

市民の移動の利便性を高めるためには、鉄道やバス、タクシーなどの公共交通の最適な機能分担と強化を図るとともに、幹線交通と地域内交通の整備や利便性・快適性の高い公共交通ネットワークを構築し、地域の特性やニーズに合った交通手段を提供することが必要です。

公共施設連絡バス「かりまる」について、引き続き、路線の充実を図るための再編や有料化を含む運行体系の見直しの検討を進めるとともに、「かりまる」を利用して参加できるイベントを開催し、市民のおでかけ機会の創出や「かりまる」の利用促進を図ってまいります。また、昨年11月にスタートしたデマンド交通「チョイソコかりや」については、実証実験を継続し、利用状況や課題の分析を進め、効果的かつ効率的な公共交通サービスの提供を図ってまいります。

本市の玄関口である刈谷駅の周辺は、市の「顔」として、活気とにぎわいにあふれる、魅力的な空間である必要があります。

多くの人が行き交う、重要な交通結節点である刈谷駅では、引き続き、JR東海とともに改良事業を推進するとともに、駅周辺の回遊性向上と安全で快適な歩行空間の形成を図るため、南北連絡通路を北側に延伸する工事に着手してまいります。

そのほかにも、今年度実施いたしました大手公園内のカリマチ広場や南北連絡通路での社会実験などの効果検証を行いながら、公共空間を活用したにぎわいづくりに取り組んでまいります。

また、刈谷駅周辺で進める、低未利用地の活用やまちなか居住の誘導などを図る取組を刈谷市駅周辺においてもスタートさせ、商業施設や住宅などの複合施設を整備する民間事業者に対して支援をすることで、本市の歴史と文化に触れる地域の玄関口にふさわしい魅力的な都市空間の創出を目指してまいります。

持続可能で魅力あふれる都市の形成や市民生活の質の向上には、公園や緑の持つ環境保全、景観形成やレクリエーションなどの様々な機能を引き出し、潤いのあるまちづくりを推進することが必要です。

今年度は、日高公園でのウォーキングコースの整備やミササガパークでのパークPFIによる再整備を進めてまいりました。ミササガパークは、ベーカリーカフェといった新たな施設や再整備されたデイキャンプ場などとともに、4月にリニューアルオープンいたします。

新年度は、地域の皆様とワークショップ等を行いながら検討を進めてまいりました三豊公園の整備に着手するとともに、本市の魅力を発信することができる5つの公園において、それぞれの公園の特色をいかした、にぎわいを創出するイベントなどを実施してまいります。

基本方針の二つ目は、「生涯にわたって学び地域への愛着を育むまちづくり」であります。

学力と豊かな心の育成をめざし、学校や家庭、地域との連携による質の高い教育を進め、生涯にわたって学習やスポーツに取り組める機会を多様な形で提供するとともに、本市の歴史・文化の継承と活用により、地域への誇りと愛着を深め、次代を担う人材を育むまちづくりを進めてまいります。

今年は、フランスのパリでオリンピック・パラリンピックが開催されます。日本代表選手が活躍する姿には常に勇気と感動をもらいますが、昨年、本市で開催した中学生を対象にした講演会の中では、サッカー日本代表の森保監督が、失敗を恐れずにチャレンジする勇気を子どもたちに与えてくれました。

コロナ禍やデジタル化など社会が急速に変化する中であっても、子どもたちが、とまどうことなく未来に希望を持つことができるよう、私たち大人は、寄り添いながら成長を支えていく必要があります。

現在、11の小中学校へ配置する地域学校協働活動推進員について、新年度には全ての小中学校へ配置を完了し、地域と学校双方の活性化と子どもたちの学びや体験活動の充実を図ってまいります。また、部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行を進めるため、学校や総合型地域スポーツクラブなどとの連絡調整を担う部活動コーディネーターを学校教育課へ新たに配置し、地域と学校における連携の強化を図ってまいります。

いじめや不登校等の問題に対しては、全小学校における心の教室相談員の配置時間を拡充し、相談などの支援を推進するとともに、ひきこもり等の困難を抱える子ども・若者が気軽に相談のできる環境を整えるため、子ども相談センターで行う専門の相談員による子ども・若者総合相談窓口の体制を拡充してまいります。

子どもたちが確かな学力と豊かな心、健やかな身体をバランスよく伸ばすことができるよう、安心、安全で快適な教育環境の充実が必要です。

体育館の空調設備整備なども含め計画的に進めております小中学校の環境整備につきましては、新年度は、雁が音中学校南舎の大規模改造や住吉小学校の擁壁改修を引き続き実施してまいります。また災害の際に避難所となる体育館等につきましては、停電のときでも電力供給なしで利用できる設備の整備を小中学校体育館に進めてまいりましたが、引き続き、トイレの洋式化などを進め、更なる施設の機能強化を図ってまいります。

生涯にわたって、誰もが生きがいを持ち、心豊かな生活を送ることができるよう、一人ひとりの興味や目的に応じてスポーツや芸術に親しむことができる環境をつくることや、本市が築き上げてきた歴史・文化に触れる機会を提供することが重要です。

ウィングアリーナ刈谷の改修や逢妻川河川敷の整備により、身近なスポーツ施設を充実させ、市民の皆様が快適で気軽にスポーツに取り組むことができる環境の整備を進めるとともに、総合文化センターにおいて、本市出身のヴァイオリニスト近藤薫氏がコンサートマスターを務める東京フィルハーモニー交響楽団の精鋭メンバーによる公演を招致するなど、市民の皆様が身近に文化芸術に親しむ機会を提供してまいります。

また、歴史博物館では、開館5周年の記念企画展「めでたきとり」を開催いたします。本市の市章のデザインは鳥の「雁」と数字の「8」をモチーフに「まさに雁が羽ばたき、飛び出さんとする形」をとったものです。「雁」のほか祝いごとにふさわしい「鶴」などをモチーフにした作品の展覧会を開催し、本市の更なる飛躍を願いつつ、開館5周年を祝ってまいります。

基本方針の三つ目は、「人と技術でにぎわいを創り未来につながるまちづくり」であります。

人と自然が調和し、環境への負荷が少ない持続可能な社会の形成に配慮するとともに、ものづくりによって培ってきた高い技術と能力の蓄積を有効にいかしつつ、バランスが取れた産業の振興を図り、働き続けることのできるにぎわいのある明るいまちづくりを進めてまいります。

本市の基幹産業であります自動車関連産業は、自動運転技術の発達や電気自動車の普及、デジタル技術の急速な進展により、大きな転換期を迎えております。こうした中でも、本市が将来にわたって産業競争力を維持し、持続的に発展していくためには、新たな柱となる産業の創出を図るとともに、次代を担う人材の育成と確保が必要です。

市内の企業が持続的に経営を行うことができるよう、新年度は、中小企業を対象に、スタートアップ企業に対する理解を深めるプログラムを実施するほか、優れた技術やアイデアを有するスタートアップ企業とのマッチングイベントなどを実施することにより、自社の課題解決の促進を図り、中小企業の事業成長へとつなげてまいります。

そのほか、今年度も実施し好評をいただいております、市内の中学生や高校生を対象にした、AIやIoTなどの技術を活用したものづくり体験の機会を、新年度も引き続き提供することで、ものづくりの楽しさを伝えるとともに、次代を担うIT人材を育成する場を創出してまいります。

また、市内の創業者や魅力ある店舗を増やし、商業の活性化を図るために、創業を検討される方が事業に挑戦しやすい環境づくりを推進してまいります。新年度は、一定期間の出店を経験できる場を提供できるよう、運営方法等を検討するワークショップを開催し、チャレンジショップの整備に向けて準備を進めてまいります。

農業従事者の高齢化や後継者不足による担い手の減少は、農業を維持・発展させていく上で深刻な問題となっており、近年、ロボットやAIなど先端技術を活用した効率的な生産が求められております。今年度から実施しているドローンや自動収穫ロボット等のスマート農業機器の導入に対する補助について、より高額なスマート農業機器にも対応できるよう、補助の拡充を行い、引き続き農作業の省力化や生産性の向上を図ってまいります。

また、生活様式の多様化に伴う不規則な食生活や栄養の偏りなどの課題に対し、未来を担う子どもたちが、食材についての理解を深め、食に関する知識を習得できるよう、新年度には市内の2つの小学校で、現役の料理人による「味覚の授業」を実施してまいります。

地球温暖化は、全世界において喫緊の課題であり、国内でも省エネルギー対策や水素などの次世代エネルギーの活用に向けた取組が積極的に行われるなど、環境問題への早急な対応が求められています。

本市といたしましても、2050年カーボンニュートラルの実現に向けまして、太陽光発電システムや家庭用燃料電池などを設置する市民や、CO₂排出量の削減効果が見込まれる設備を導入する事業者に対する補助を継続し、脱炭素化に資する取組を支援してまいります。

加えて、ウィングアリーナ刈谷をはじめとした33の公共施設の照明機器を順次、LED化することで、環境負荷及び維持管理経費の軽減を図り、持続可能な社会の実現に向けた取組を推進してまいります。

基本方針の四つ目は、「支えあい誰もが安心して暮らせるまちづくり」であります。

子育て支援及び保健・福祉サービスの維持・向上を図るとともに、災害や感染症、交通事故、犯罪などに対する安全性を高めることにより、みんなで支え合いながら、多様性が尊重され、誰もが住みなれた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります。

子どもは、次代の社会を担い未来の希望となる、かけがえのない存在であります。安心して子どもを生み、育てるためには、子育てに係る保護者等の負担を軽減し、心や体を健やかに保てるような環境づくりが必要です。

出産後の母親が心身ともに健康に過ごせるよう、産後ケアにつきまして、これまで取り組んで好評をいただいている宿泊型と日帰り型に加え、助産師が自宅を訪れる訪問型を新たに実施してまいります。

また、母親だけでなく、父親の子育てに対する不安感を緩和するため、父親が気軽に集えるような場の提供や、父と子で一緒に参加できるイベントを開催するなど、安心して子育てできる環境を整備してまいります。

いつまでも心身ともに健康でいきいきと生活するためには、一人ひとりが日ごろから自らの身体の状態を知り、健康の保持増進に努めることは大切なことであり、健康診断や予防医療を普及啓発することが重要となってまいります。

新年度は、39歳以下の健康診査において、胃がんのリスク検査であるピロリ菌抗体検査のオプションを1回無料で受けられるようにするとともに、50歳以上の方を対象に実施している帯状疱疹の予防接種については、より多くの方に受けていただけるよう助成額を拡充し、発症の予防を図ってまいります。

そのほか、現在20歳から70歳の5歳刻み年齢の方に実施している歯科健康診査においては、新たに18歳の方を対象に追加することで、定期的な受診の動機付けを一層図ってまいります。

高齢者や障害のある方がいきいきと活躍し、地域で安心して生活できるよう、支援体制を整えることが重要です。

知的障害のある方の就労や生活の支援を行うすぎな作業所につきましては、令和7年度の運営開始に向けて建替工事を進め、利用者が安心して過ごすことができるよう施設機能の強化を図ってまいります。

高齢化の進展により、高齢者サービスの需要は年々増加するとともに多様化が進み、高齢者を支える仕組みのより一層の強化が求められています。

住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、新年度には、在宅生活をする高齢者を対象に、買い物や掃除など日常生活のちょっとした困りごとについて支えあう仕組みづくりをスタートしてまいります。

冒頭にも申し上げましたとおり、元日の能登半島地震では多くの人命が失われ、津波や火災などの要因も加わり、広範囲に渡って甚大な被害が発生いたしました。

この地域におきましても、将来的に発生が予測されている南海トラフ地震への備えは必要不可欠であり、市民の皆様が安心して生活を送ることができるよう、より一層の防災体制を構築していくことが重要です。

避難所機能の強化として、新年度は、井ヶ谷町に福祉避難所用の防災備蓄倉庫を新たに整備することで、災害時においても要配慮者が安心して過ごせるような支援体制を整えるとともに、引き続きマンホールトイレの整備を順次進め、快適で衛生的な避難所環境の確保を図ってまいります。

そのほか、住民等がSNS上に発信した被害状況を、AIにより迅速に把握・可視化ができるシステムを災害対策本部に導入し、災害時において円滑かつ正確に情報を収集し、迅速に対応できる体制を強化するなど、市民の皆様が安心して日常生活を送ることができるよう努めてまいります。

物価高騰に伴い事業費が全般的に膨らむ社会情勢にあって、以上の4つの基本方針を推進するためには、行政のマネジメントがますます重要となってまいります。スマートシティの実証実験を通じて社会のニーズに合った新たな事業を見いだすなど初めてのチャレンジを進める一方で、DXの推進や既存事業の見直しなどによって経営の効率化やスリム化を図り、健全な財政運営と市民サービスの向上の双方を実現してまいります。

新年度も以上の施策によりまして、市民の皆様が“元気”に、“笑顔”で、未来へ“希望”が持てるよう、「人が輝く 安心快適な産業文化都市」の実現を目指してまいります。